



賀正

『“三兎”を追う厳しい時代』

に力を合わせて」

積丹町長 松井秀紀

明けましておめでとうございます。

令和3年の新しい年を町民の皆さんとともに元気で迎えることができましたことを、大変嬉しく思います。

私も4期目の町政を担当しましてから、おかげさまで6ヶ月が経ちました。

今も続くコロナウイルスに怯える毎日の暮らしや、時の多くの町の課題の行方を案じながらも町民の皆さん一人ひとりが誰よりも郷土積丹を愛し、私の町政課題への挑戦の願いに町議会議員の皆さんとともに、真剣に耳を傾け、ご協力をいただいてまいりました。そうした町民の皆さんの深いご理解と温かいご協力に心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年は、“コロナとの闘い”という国難が、私たちの日常生活や経済活動を一変させ、その苦難に耐え、一刻も早い収束を祈る思いが募る一年でした。

一方で、11月19日深夜の大雨の激流に耐えた美国川の河道の変貌からは、自然の脅威と防災の重要性を学び、またコロナ禍の癒しと避暑を積丹ブルーの地に求める大勢の札幌圏の人々の“密と疎”の新たな現象や、“積丹ジン”の命の原料となる半島の多様な植物の発掘と活用からは、改めて私たちの郷土積丹町の自然環境の豊かさとその優れた価値が様々なメディアを通して道内外に発信され、脚光を浴びる出来事もありました。

新しく迎えた令和3年、政府は、未曾有の国難は「コロナウイルスの感染拡大防止」と「経済の回復」と「国の財政の健全化」の

三兎を追う厳しい戦いであるとして、コロナと共存の時代の「自助・共助・公助」と「絆」の大切さを私たち国民に訴えています。

また、コロナ不況下での国税収入の著しい減少は、地方交付税交付金の財源が縮減する結果を生み、「自己決定・自己責任」を基本とする地方分権時代の地方自治体の行財政運営への影響が増すことは避けられそうにありません。

私たちは、三兎を追う厳しい国難と同じように、町の「健全財政の維持」と「公共行政サービス水準の維持」と「地域の活性化」という3つの課題の克服と両立を基本に、急がれる防災・減災対策や温泉特別会計の悪化、役場庁舎の老朽化など、数多くの懸案課題の克服と、“コロナ”に負けずに、過疎地域の公益的機能を維持し、その振興を目指して、自治力と財政力と行政力を養い、町民と議会と行政が共に力を合わせていかなければなりません。

私は、町民の皆さんのご理解とご協力をいただき、国や道、民間機関や多くの道内外の積丹応援団の方々の知識や技能をお借りし、その信頼関係を大切にしながら、そして町民の皆さんの融和と郷土愛を育む力を大切に、私たちの「故郷・積丹のまちづくり」に弛まぬ努力を傾けてまいりたいと思います。

令和3年の新春を迎えて、町民の皆さんのご多幸とご健勝を心から祈念し、年頭のご挨拶といたします。

今年は『丑年』

丑（うし）とは干支（十二支）の中で第2番目に数えられます。昔の時刻の名で丑の刻は、午前2時を中心とする約2時間。

「丑」という字は手の指を曲げてものを握る様子を表した象形文字で、本来の読み方は「ちゅう」。中国の歴史書『漢書』律曆誌では「曲がる」を意味し、芽が種子の内部で伸びきらない状態を表しているように「紐」にその意味がうかがえます。この「丑」を「うし」としたのは、庶民に十二支を浸透させるため、動物の名前を当てたものです。牛といえはのんびりなイメージがありますが、古来から労働力の一つとして利用され、食糧、肥料と私たちの暮らしの中で欠かせることのできない動物です。

※町内の丑年生まれの方は、165人です。

大正14年生	96歳	11人
昭和12年生	84歳	29人
昭和24年生	72歳	46人
昭和36年生	60歳	28人
昭和48年生	48歳	22人
昭和60年生	36歳	16人
平成9年生	24歳	3人
平成21年生	12歳	10人

※令和2年12月21日現在



迎春

「未知なる困難な時代に対応できる

地域社会の再生を目指して」

積丹町議会議長 山本俊三

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春を晴れやかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

年頭にあたり、積丹町議会を代表しまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さまには目頃から町議会に対し、深いご理解とご協力を賜りまして、心からお礼を申し上げます。

昨年を顧みますと新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延し、国内でも猛威を振るい、日常において我慢を強いられた一年となりました。多くの犠牲者と感染者にお悔やみとお見舞い、医療従事者に敬意を表しますとともに、未だ収束が見通せない不安から一日も早く解放され、安心安全な生活を取り戻すことを願って止みません。

本町に目を向けますとコロナ禍にあっても名産のウニや自然探勝を求める客足が遠のくことはなく、都市間の往来自粛解除後は、週末を中心に後志道余市インターチェンジから本町に向けて長い車列ができました。一方、後志管内2町村では、核のゴミ最終処分場の選定を巡る動きがにわかに巻き起こり、相次いで文献調査の応募と受諾が報道されました。名乗りを上げた両町村は、本町

の近隣と近傍に位置することから経済活動や住民生活等に与える影響について、今後の推移を十分注視していく必要があります。

本町の過疎化が進行する中、折しも過去に経験したことのないコロナと共存する厳しい時代を迎え、少子高齢化や人口減少、福祉・医療サービスや教育、雇用や担い手確保、経済対策や施設更新など取り組むべき課題が山積しています。町議会としましては、町民の皆さまの負託に一層応えるため、二元代表制の一翼として、町行政の監視機能や政策提言機能の充実強化を図ることはもとより、新たな生活様式や新北海道スタイルに大きく変化した社会情勢にあつて、本町の未来に向けた『未知なる困難な時代に対応できる地域社会の再生』を目指し、住民生活の向上と町勢発展に全力を尽くす所存です。

これからも積丹町議会に対し、力強いご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまの今年一年のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。

「丑(うし)年の町の出来事」

【昭和48年】

- ・来岸小学校が閉校
- ・第5次漁港整備計画着手(美国・幌武意・日司・余別漁港)

【昭和60年】

- ・入舸中学校閉校
- ・第1回「おらが名物積丹まんぷくまつり」
- ・積丹地区国営草地開発事業着工(川上地区)
- ・国際森林年記念植樹祭(黄金岬)

【平成9年】

- ・島武意海岸が「日本の渚百選」選定
- ・積丹町社会福祉協議会が厚生大臣表彰
- ・国道開通記念積丹町・神恵内村議員交流会(文化センター)

- ・全道漁業青年・女性交流発表大会で道代表(澤貴幸さん(余別))

【平成21年】

- ・全道初の小樽海上保安部「名誉灯台長」称号授与(成田熊太郎さん(神岬)、小澤清一さん(余別))
- ・水難救助訓練全道大会入賞(積丹1位、美国3位・石狩湾新港)